

## 【文京区】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本区では「個が輝き共に生きる文京の教育」を教育ビジョンに掲げ、Society5.0における社会や科学技術の進展に貢献できるよう、ICTやAI等の先端技術を活用した学びに必要な基盤を整備し、理数教育の充実や個に応じたきめ細やかな指導を区の教育指針として掲げている。令和2年度に1人1台端末環境が整い、活用を進めてきたが、令和7年度の1人1台端末更改以降、今以上に利活用できるよう促進していく。

本区ではMicrosoft Teamsを積極的に活用しており、引き続きクラウドツールとして活用を進めていく。また、様々なアプリケーションを学習eポータル経由でSSOを実現しており、各アプリケーションの起動ログの可視化等も実現している。また、学習理解度データ等を取ることで、個に応じた指導に活かすことができる環境としていく。学習ドリル教材や協働学習ツール、情報モラル教材等、それぞれの必要シーンに応じたアプリケーションを活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と情報活用能力の育成を図るものとする。

#### 2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、「Society5.0の教室」プロジェクトにおいて、ハイブリッド授業や1人1台端末の効果的な活用、ICT支援員との連携等の実践研究を行い、ハイブリッド授業による学びの保障や効果的な実践事例の蓄積によって学校・教員間の格差是正につなげることができた。また、ICT支援員の派遣時間の増加や新たなアプリケーションの導入等により、教員の負担軽減とともに、児童・生徒の情報活用能力の育成にも寄与することができた。

一方、GIGA第1期で導入した1人1台端末については起動時間の長さやネットワークの脆弱さという課題があったが、事前に区内小学校で検証を行った結果、先述の通りのクラウド対応することにより起動時間短縮が可能であることが分かっている。

今後については、これまでに培ってきた資産を有効活用することや教職員との環境の統一を図るため、GIGA第1期同様Windows端末を採用することとする。また、当区が目指す教育ビジョン実現のために、多くの種類のアプリケーションを利用していることから、GIGA第2期では東京都が示す標準スペックより上位のモデルを採用し、動作の快適性を高める。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 1人1台端末の積極的活用について

- 毎年度ICT研修を受講する教員の率を100%とする。  
1人1台端末の更改に伴い、全校研修を令和7年度及び令和8年度に実施することで、全ての教職員が環境を理解し、授業で利活用できるようにする。
- ICT支援員については1校あたり年間約100～200回訪問するように事業者と契約締結を行う。
- 1人1台端末については、全校が毎日利用するように推進する。現状では起動が遅いことやネットワークの脆弱さ等を理由に、日々の利活用を敬遠する教員がいるが、新しい端末及び新規ネッ

トワーク環境においては、起動時間問題の解消やネットワーク強度の改善が実現する見込みであり、上述の利活用研修等と併せて毎日の利活用を促進する。

- デジタル教科書については既に利活用が進んでおり、継続して活用できるように推進する。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実について

- 日々の調べ学習について、現状でも多くのシーンで活用されているが、今後も各学校での利活用を推進していく。
- 端末で学習内容のまとめや発表等の機会を作り、毎日利活用されるように推進していく。本区では普通教室、特別教室含め全教室に電子黒板が整備されており、これを活用して全校（100%）での児童生徒による発表を推進していく。
- 全校（100%）でMicrosoft Teams等を用いて教職員と児童生徒による端末上での活発なやりとりを推進していく。
- 全校（100%）でMicrosoft Teams等の協働学習ツールを用いて児童生徒同士による端末上での活発なやりとりを推進していく。
- 全校（100%）で学習ドリル教材を用いて、各児童生徒の特性や理解、進度に合わせて端末上で学習が行えるようにする。

#### (3) 学びの保障について

- 不登校の児童・生徒への登校支援として、校内居場所（別室）対応指導員の支援やメタバースを活用した不登校支援プログラム「room-K」の活用など、児童・生徒が社会的自立等に向けて、学校内外で一人ひとりに合った学びの場を選択できる体制を構築する。

これらを行うため、児童生徒1人1台端末の更新を行い、全ての学校で端末の利活用促進を行う。